

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
平成 29 年 3 月 30 日 提出

1. 視察概要

会派名	おおさき市民会議
視察者名	相澤 孝弘・相澤 久義
視察日	平成 29 年 3 月 23 日
視察先	東京都品川区大井町きゅりあん 5 階研修室
出席者	主催者情報機構
	講師 大阪大学大学院工学研究科 応用化学専攻 教授 博士(工学)

2. 視察内容

視察項目	セルローズナノファイバーの作成と用途展開の最新動向
視察内容	<p>最初にセルロースの基礎として バイオマスについて説明があり、バイオエネルギーへの期待・バイオエタノール生産の流れの説明後に現在の未利用バイオマスとして稲わら・もみ殻・間伐材を木質バイオマス・リフィナリーシステムとしての高度バイオマス産業で原材料に川下産業のニーズをフィードバックする中での日本の農林産業政策に反映してきた経過が解説された。そして製紙産業・化学産業が林産業とつながってユーザー産業(自動車・電機・情報通信・住宅・繊維・食品・印刷等)への流れでセルローズナノファイバーが研究されている。専門的な繊維の基礎・天然繊維、天然高分子由来の繊維・セルローズの構造・セルローズの結晶構造・セルローズ系化学繊維・化学修飾・ビスコースレーヨン・再生セルローズ・木材セルローズの階層構造・セルローズマイクロフィブリル・ナノセルローズ・セルローズナノファイバーの特徴・物性・用途、技術課題について専門的な用語を用いて解説されました。</p> <p>その後にセルローズナノファイバーの作成方法に入り、前処理の方法と比較や超高压微粒化技術という製造装置の説明がありました。次に米国での試作状況や世界の生産設備稼働状況から国内の民間企業による用途開発状況・生産状況と実用化に向けた検討課題等が示され、液状化・パウダー・シート・フィルム化による活用と成型技術について説明がされました。一部は既に製品化されて私たちの生活に浸透している事や、将来的に研究開発が進めば原材料としての間伐材の利用が増大して行くとの説明に今後の研究開発と企業の動向を注視してアプローチして行く事が、大崎市の森林資源の活用に大きな期待が出来ると感じた次第であります。</p> <p>詳細は関係資料を添付して報告と致しますが、林業振興の考えについて大きな変革を与える内容となるものと申し添えます。</p>
他会派との 合同実施	

おおさき市民会議政務活動報告書

1. 視察概要

会派	おおさき市民会議 相澤 孝弘 相澤 久義
日時	平成29年 3月24日(金曜日) 午前9時30分～11時
場所	衆議院第二議員会館 小野寺五典事務所会議室
説明者	内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局 内閣府参事官 山根 栄一郎 主査 庄中 健太

2. 視察内容

視察項目	地方創生交付金に関する調査(内閣府担当職員との意見交換)
視察内容	<p>平成29年度予算1,000億円</p> <p>事業概要・目的 本格的な事業展開の段階を迎えた地方創生について、更なる深化のため、地方創生推進交付金により支援</p> <p>①地方版総合戦略に基づく地方公共団体の自主的・主体的で先導的な事業を支援 ②KPI設定とPDCAサイクルを取り組み、「縦割り」事業を超えた取組を支援 ③地域再生法に基づき法律補助の交付金とし、安定的な制度・運用を確保</p> <p>※ 地方公共団体は、対象事業に係わる地域再生計画(5ヶ年度以内)を作成し、内閣総理大臣が認定</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>資金の流れ</p> <div style="text-align: center;"> <p>(1/2の負担については、地方財政措置を講じる)</p> </div> <p>対象事業・具体例</p> <p>①先駆性のある取組み・民間協働、地域間連携、政策間連携、事業推進主体の形成 中核的人材の確保・育成 例)ローカル・イノベーション、ローカルブランディング(日本版DMO)、生涯活躍のまち、働き方改革、小さな拠点 等</p> <p>②先駆的・優良事例の横展開 ・地方創生の深化のすそ野を広げる取組</p> <p>③既存事業隘路を発見し、打開するための取組</p> <p>29年度からの予算運用弾力化</p> <p>① 交付金上限額の引き上げ(事業費ベース) 【市町村】先駆 4.0億円(28年度:2.0億円)横展開・隘路打開 1.0億円(28年度:0.5億円) ※所得向上等の観点から特に効果的な取組は、交付上限額を超えて交付することが可能</p> <p>② ハード事業割合 計画期間えお通じたハード事業割合は、原則として1/2未満。ただし、1/2以上になる事業であっても所得向上等の観点から地方創生への高い効果が認められた場合は申請可能。</p>

以上のことから下記の事業は対象事業にならないか要望した。

鳴子峡周辺整備に関する提案

鳴子峡は、平成19年の崩落事故以降、大半の区間が通行止めを余儀なくされている。このことが本市観光の核となっている鳴子温泉郷をはじめとする観光客数の減少にも大きな影響を与えている状況は否めない。

このようなことから、鳴子峡周辺の一体的な整備方針を改める必要があると思われる。

旧鳴子スキー場(花淵山)を含め、鳴子峡の開発再整備を民間活力を活用して進めていくべきと考える。

民間に再整備と運営をしていただくためには、行政が地方への投資を促す手伝いをしている金融機関に対してプレゼンを行い、その機関と連携して開発・運営事業者へのアプローチをしていくことが最善の進め方ではないかと思慮されます。

例として、メガバンクの三井住友銀行が県と連携をして仙台港に新設された「海の杜水族館」を誘致した実績があります。

本市では当該金融機関は、地方創生元気戦略推進委員会のオブザーバーとして委嘱経緯があります。

そのためには、行政側も今の進め方を、“民間活力を活用して進めていくんだ”という意味決定が必要で、各種支援体制の構築も同時に必要になってくるものと思います。

【想定される開発】

①鳴子峡遊歩道の通行が現実的に不可能なのであれば、旧鳴子スキー場のゴンドラを活用し、鳴子峡上空に索道を延伸させ上空からの景色を堪能できる環境を整える。

②中国ではないが、鳴子峡にガラスの吊り橋をかける。

③旧鳴子スキー場には源泉が1本あるので、その源泉を活用して、ゴンドラを活用して山頂に天空の露天風呂を設置する。

※旧鳴子スキー場は、晴れている時には松島湾までの眺望を楽しむことが可能。

④旧鳴子スキー場の“カベ”と言われている斜面を活用して、当該施設で使用する電力をソーラー発電で補う等・・・。

○旧鳴子スキー場を絡めて整備を進めていくことにより、山岳遊歩道の活用も容易になってくる。

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
平成 29 年 3 月 30 日 提出

1. 視察概要

会派名	おおさき市民会議
視察者名	相澤 孝弘・相澤 久義
視察日	平成 29 年 3 月 24 日
視察先	東京都新宿区四谷坂町12-21 NPO法人 日本幼児教育振興会
出席者	理事長 浪岡 寛・常務理事 佐藤 公男

2. 視察内容

視察項目	サントレ言葉の教育について
視察内容	<p>「言葉は幼児の心を育む母乳である」言葉は、人間だけに与えられた神様からの贈り物で赤ちゃんがお母様のお乳を吸って成長するように、子どもたちの心が豊かに育つかどうかは、ひとえに言葉の栄養をどれだけ与えたかによるのです。しかし今、子どもたちの心の荒廃は目に余るものがあります。それは、日本語から美しい調べが失われてきたことと無縁ではない。近年は、汚い言葉や殺伐とした言葉が氾濫し、子どもたちは生まれた時から言葉の環境汚染にさらされ、その純粹で柔らかな心が蝕まれている。幸い、我が国には親から子へ、子から孫へと何代にもわたって受け継がれてきた美しい日本が、先人の残してくれた童謡唱歌・詩歌・物語のなかに満ち満ちている。折りしも文部科学省が「言葉の教育」を重視し、全ての教育の基盤に位置付けました。</p> <p>子どもたちの心の根を養うため、幼少期における「言葉の教育」の重要性が見直されている。</p> <p>「サントレ・言葉の教育」は、遊び感覚で、脳が抵抗なくスラスラと吸収できる幼少期に、美しい言葉、優しい言葉、尊い言葉を、シャワーのごとく日々惜しみなく与える事で、躰、敬う心、思いやる心、考えて話す力を養う、すべての学びに優先したい基礎教育であるとして精力的に活動している。全国各地で幼稚園や保育園で導入が進んでおり、宮城県では石巻市のひばり幼稚園、大崎市内では太陽保育園で実践されていると紹介がありました。</p> <p>具体的な内容として、朝の時間に瞑想から始まり、漢字かな交じり文の正しい日本語で絵本を読み、カード遊びをする。2歳児から小学校の低学年まで成長段階に合わせて、ことわざ、俳句、和歌短歌、論語から漢詩まで、遊びの中で楽しく学び子供達の心を豊かに育む母語教育だという事でした。詳細については別紙資料を添付して報告と致しますが、知・徳・体の向上が見込まれることから市内の施設における導入を期待していきたいと感じました。</p>
他会派との合同実施	